2023 年度日本デフバス協会（＝JDBA）の現状【共通理解事項】 ＜その１＞

～2021 年度・JDBA 前理事会解任から 2022～2023年度・現 JDBA 活動の概要と 2021 年度・前 JDBA 理事会からの「訴状」の案件発生まで～

2021 年２月

始まり
デフバス日本代表男子選手らの訴え

「男子バスケチームの代表●監督（聴者）のもとでバスケをやることが苦痛」★

○チーム内ミィーテング等に監督指示によって「ろう」である自分が、●監督の口形を読み取って、手話通訳の情報保障を行う。
→チーム内での「手話」の存在の軽視、手話でのコミュニケーション手段を通してチーム内の一体感が生まれない。
→聴覚活用ができる選手（難聴）は監督と音声のやり取りが可能
→選手同士に「心の壁」が生じる。
○●監督の考えるシステム（機能性・各自が役割を持つ）を理解ができない。手話によるコミュニケーションが取れない

Zoom、直接対面相談
(2 月、6 月、8 月計 3 回)

2022 年度・現理事メンバー

2021年３月～９月

問題点の整理・確認(3 月～9 月)

○20 年以上に及ぶ日本のデフバスの特徴が「全く」つかめない
○JDBA の主要事業「ミミリーグ」「強化合宿」「啓蒙の諸活動」の告知や報告などを HP 内容記載、更新がない。
○代表以外の地域の JDBA 会員が不在。
※JDBA 会員が約 10 名〈2021 年現在〉
○啓蒙目的で●監督監修の Youtube 動画を多数あるが、（ろう聴障者出演のバスケシーンが出てくる）出演者の発言に字幕がつかず、手話通訳等の情報保障がない。この動画の趣旨がわからない。ろう聴障者関連法令に違反をしている。
○デフリンピックの目的・歴史などを調べ、「アモンズ・レポート（ICSD 元委員長）」の『私たちはアスリートである前に“デフ”なのだから』を見ると、2021 年度・JDBA 理事会の活動内容に合致しない。
○●監督はブログや動画での発言で、「手話はコミ手段の一つで、相手と意思疎通ができればろう聴障者も聴者も同じ人間であることに変わりがない」というが、選手らに手話などの言語を通して「考え」させる観点がすっぽり抜け落ちている。デフバスケを選手自身が強くする意識が育たず、楽しむことができない。
○2021 年度・JDBA 前■理事長と強い協力関係。●監督の考えや活動に全面賛同。

2022 年度・現 JDBA 理事会のメンバーが関係者らに問い合わせ、資料等で調べる。

2021年 10 月～11 月

2022 年度・現理事会候補者グループを立ち上げ、デフバスの普及に乗り出す…

○10 月半ば、全日ろう連主催の「国際手話デー」イベントで NZ ろう協元会長と ICSD 事務局長の対談でデフリン参加の拡大について対談に触れたので、これを視聴した 2022 年度・現理事が★について、■前理事長と Zoom 対談。
※10 月末～12 月初めまでは毎週一度、Zoom 話し合いを行う。
○■理事長に Zoom 話し合いで、「●監督が★のような言動があるが、どう思うのか？を問うた。→■理事長「デフバス日本代表選手らの訴えは受け止め、●監督と相談をする」と返事がある。
※監事・強化委員長の立会いの下で、■理事長とデフバス日本代表選手らと★の内容を Zoom で確認「●監督に伝える」と約束をした。
○JDBA の組織運営が健全に運営されていない状況を確認したうえで、「デフバス（JDBA）の理念はどう考えているのか？」を■理事長に問うた。→■理事長から返答なし。
※一組織が「理念」(到達目標ともいえる）を掲げ、組織の長が会員らをけん引するという感覚がないことが判明。
○JDBA の事業の一つ「理事長杯」を行いたい(●監督がこのバスケ大会開催のために企業スポンサー援助を取り付けた)ので、コロナ禍で延期となっている 2020 年度総会を 11/14 に実施すると聞く→手話通訳の情報保障の設置や Zoom で総会するノウハウを JDBA の事務局は無知であった。開催まで残り 1 週間で 2022 年度・現理事会が 2021 年度・前理事会事務局に連携を取り、情報保障がつく Zoom 総会を無事に開催。
○■理事長から、●監督のことをいったん切り離して、石川ミミリーグの運営や JDBA 理念に基づいた組織運営を 2022 年度理事会メンバーが■理事長に強く迫った。
→■理事長は受け止められず、2022 年度・現 JDBA 理事会のやり取りが立ち消え
→■理事長と●監督の関係は継続
→★をしないという■理事長から選手らへの「確約」の Zoom 話し合いをする場のセッテングを 12 月に予定していたが、立ち消え

2021年 12 月～2022 年3月

2022 年度理事が JDBA の再生活動を開始。

○12/21、全日ろう連主催の「デフリン説明会」に■理事長が参加するかの連絡が理事会に知らされないまま、■理事長が独断で参加。
○全日ろう連主催、2/20 に開催のデフリンフェスに石川デフバスチーム一選手が企画のパネデ参加。これも事前に■理事長が JDBA 理事会に連絡や相談をせず。
○◎「■理事長がコロナ罹患、諸事情などで連絡不能・遅延に陥り、前理事会の事務局長が 2021 年度・JDBA 前理事ら、監事と協議の上、臨時理事会を招集する。
→■理事長を解任、2021 年度前理事会を解任、2022 年度・現 JDBA 理事就任等の議案採決をする。」
○■前理事長らによる 2021 年度の JDBA 協会の運営は機能不全状態であり、パラスポーツ協会からの助成金を打ち切られ、(秋からの再三の催促にも関わらず、助成の会計報告がないため)を打ち切られ、加盟団体から除外される。
→助成会計報告は 2022 年度・JDBA 現理事会が済ませる。除外されたパラスポーツ委員会とは連絡を取り続け、パイプは保ち続けている。
○JDBA の最盛期時は会員が約 200 であったのに対し 2021 年 11 月現在は 20 以下に落ち込んだ。会員戻しを含め総会で JDBA 理念、強化・普及・養成の活動の 3 本柱を打ち出す。
○3 月の総会で、■前理事長の「辞任（解任)」挨拶（動画有）を自ら作成、投影を行う。

2023 年度日本デフバス協会（＝JDBA）の現状【共通理解事項】 ＜その２＞

～2021 年度・JDBA 前理事会解任から 2022～2023年度・現 JDBA 活動の概要と 2021 年度・前 JDBA 理事会からの「訴状」の案件発生まで～

2022 年４月

前理事会の手配、引継ぎ、活動資金もなしの状況で活動開始。2022 年 4 月段階で、デフバス大会利用の体育館、強化合宿場所、養成企画・普及企画はオールゼロ

○福島在住の身スポ委員会の車いすバスケ理事の力を借りて、7･8 月の養成企画、強化合宿体育館、宿泊場所を手配。

○上を呼び水に会員らの協力で 3 月までの体育館をおさえ、各企画、合宿、バスケ大会実施。

○2021 年度までの全国デフバス各チームは自チーム運営維持に手一杯（コロナ禍の影響、高齢化等）。

○全国大会運営は開催地元実行委員会が全引き受けで JDBA の全体が疲弊

→JDBA の組織運営体制を見直す。

○2021 年度までの JDBA は大会運営や海外遠征活動の偏りがち。

→強化・普及・養成活動を均等に行う。

4 月初めに JDBA の登記（2016～2021 年度〈3 期分〉更新が未完了との通達が法務局からくる

○2016～2021 年度元理事会の登記手続きに更新漏れが判明。司法書士を雇い、登記対応を開始。

2022 年度・現 JDBA 理事会で「2021 年度までの男女代表の解散」を決議

○2021 年度までの男女チームの両●監督女監督の解職、代表チーム解散を代表選手らに申し渡し。

→前代表選手らには解散の理由や JDBA の現状説明の告知を Zoom などで対応を行った。

2022年５月～8月

課題の対応①

○◎「■理事長が～2022 年度・現 JDBA 理事就任等の議案採決」「3 月の総会で、■前理事長の『辞任（解任）挨拶』を覆し、■前理事長、前２理事が弁護士を立て、「■前理事長招集ではない臨時理事会開催は定款違反。JDBA 運営の権利を返してほしい」と 2022 年度・JDBA 現理事長あてに 6 月末に『通知書』が来る。

→ろうの松田弁護士に JDBA は代理人を依頼。そのための依頼予算を 8 月理事会で承認を取り、**「■前理事長の代理弁護士と、前理事会の怠慢、助成打ち切り、登記更新が未完了、理事長交代は JDBA 会員定款に基づく等を記載した『回答書』に挙げて対応。**

○会員と LINE のオープンチャットを開催、数回にわたる Zoom 懇談を行う。

○強化、一般デフバス競技大会のみならず、普及企画、養成企画（地域のバスケクリニック活動、全国的なバスケ教室的な活動、オンラインによる Zoom 講習会等）を行う。

○デフバスの啓蒙・宣伝も兼ねる資料作成〈パンフ〉に着手
※2023 年度 4 月から全日ろう連から刊行、JDBA 協力）

○「デフ NF」「デフ審判」「普及企画」「○○大会準備」等の多数の LINE 部屋を作り、意見交換・準備を行い、Zoom で討議する雛型体制を作る。

○６月にバスケイベント、7 月に合宿、8 月に普及・養成企画等を開始する。

2022 年9月～2023 年2月

課題の対応②

○2022 年度 JDBA 会員 120 名を越える。

○9 月の「全国ろうあ者体育大会〈全日ろう連主催〉バスケ競技大会」、10 月の「エネオス協賛 3×3 デフバス大会」、12 月の「エネオスカップ全日本デフバス大会」などの参加、短期間準備、開催場所のバスケ協会との連携、運営・対応を会員主体で行い、盛況であった。

○２月に「通知書」内容もとにした■理事長と２前理事の代理人が大阪地裁に JDBA 運営の「地位事故」の訴状を出し、JDBA の理事らが訴えられる。

→松田弁護士を通して、和解に向けて調整中。■前理事長は理事会で「会員停止」を決議
※訴状の添付資料には「令和４年９月」JDBA 代表は■前理事長の名で、法務局に登記済。

○2023 年度～2025 年度 JDBA の事業を行うための体育館、宿泊施設を全手配、予約、交渉中などと開催見込みを確定させつつある。

→事業を行うための、バスケ関係者との関係づくり、スポンサー新規開拓・確保や助成申請を通しての資金作りを行う。

○全日ろう連の「スポーツ委員会」「デフリン推進室」とのパイプ強化に努め、デフ NF 一員としての JDBA 活動・体制強化に努める。

→デフリン大会を機にデフバス活動の展開の充実

❶JDBA 内のデフ NF 活動の充実
❷デフ審判体制の充実
❸サインバスケを基軸にしたデフバスケチーム作り、代表チーム作り
❹宣伝資料作成や HP・SNS 発信を充実

※❶～❹に応じた LINE 部屋を立ち上げ、必要に応じて Zoom を開始。

2023 年３月

◎３月総会でこの「現状」資料を一般会員に公開・説明を行う。

◎訴状案件はあるが、今までと変わらぬ 2022 年度発の JDBA 活動を行い、社会にデフバスケを幅広く啓蒙活動を展開する。